



消防大学校だより

上級幹部科(第76期)

上級幹部科(第76期)は、1月16日から2月1日までの17日間の日程で消防長、消防署長を中心とした45名の学生を対象に実施しました。

上級幹部としての資質の向上を目的に消防に関する高度な知識及び技術を総合的に修得しました。

座学では、岡崎浩己消防庁長官の講話、消防庁幹部による消防行政の現状と課題や最新の消防行政の動向に関する講義、北村吉男全国消防長会会長による組織管理者としての役割等に関する講話を通じて、組織の幹部としての職責の重さを再認識しました。

これらのカリキュラムに加え、消防行政訴訟、国民保護・防災行政、参事ストレス対策等組織管理を行う上での情報と認識を深めるとともに、危機管理広報では各想定の実況記者会見を体験し、さらには図上訓練、指揮訓練等多くの体験をしました。

特に指揮訓練においては、今後起こるといわれる首都直下型地震を想定した指揮シミュレーションを体験し、大規模災害時の各都道府県及び被災地消防本部並びに緊急消防援助隊の役割・動きについての各運用要領を再確認しました。

また、火災件数の減少と熟練職員の大量退職に伴う経験の浅い若年職員の増加や火災性状等の認識不足による受傷事故を減少させるため、来年度から本格的に導入する「実火災体験型訓練」について見取り訓練を実施しました。

一方、課題研究では、事前に付与した3つのテーマについて各班で熱心に討議し、代表者が発表することで各消防本部が直面している課題について多くの意見が交わされました。

今回の研修を受講して、学生からは「今後我々が直面すべく様々な事案を解決するため多面的な考え方、方策等を学ぶことができた。」、「同期生との意見交換を通して、一人一人が郷土を愛し自分の消防本部に誇りを持っており、改めて「消防」という仕事の素晴らしさ、「消防人」の熱意を感じた。」、「今回研修で得た貴重な体験や知識、数々の友との交流によって知り得た情報と絆を所属の今後のために一石を投じたい。」などの感想が得られました。

消防大学校で修得した幅広い知識と磨きをかけた判断力に加え全国の仲間から得た情報を活かし、今後さらなる消防行政の強化に当たることが期待されます。



危機管理広報での模擬記者会見の様子



指揮訓練の様子



実火災体験型訓練での見取り訓練の様子

緊急消防援助隊教育科 航空隊長コース(第10回)

消防大学校では、緊急消防援助隊教育科 航空隊長コース(第10回)を、平成25年1月16日から1月29日までの2週間にわたり消防防災航空隊の隊長及び副隊長26名が受講し、実施しました。

本コースは、緊急消防援助隊の航空部隊の隊長等に対する教育を主眼として航空隊の運用・活動統制、安全管理、広域応援、地上部隊との連携等を学び、その業務に必要な知識及び能力を修得させることを目的としています。

カリキュラムの具体的な内容としては、「航空法規」、「航空工学」などの基礎的知識をはじめ、消防庁幹部職員による「緊急災害対策に関する行政対応の現状と課題」や「消防広域応援の対応」の講義、自衛隊、海上保安庁及び警察による「航空運用」に関する講義のほか、自らが経験した活動事例について個々に発表し、討議及び研究を行う「災害活動事例研究」や、東日本大震災で全国の

航空隊から応援を受けた宮城県防災航空隊長を講師に招き、受援対応とその実態についての講義を実施しました。また、校外研修として、館山海上自衛隊第21航空群で視察研修を行い、海上自衛隊が行う災害応援についてディスカッション形式で討議し、消防と自衛隊の航空救助活動に対する相互の認識を深めるとともに、海上自衛隊の航空装備や航空管制について学びました。

今回の研修を受講して、学生からは「他の航空隊の方との意見交換ができ、共通の悩みを持つ者同士として知り合うことができた。」、「大規模災害時での航空応援・受援要領が理解できた。」、「他機関の航空活動を知ることにより、他機関との連携活動の一助となった。」などの意見が数多く寄せられました。

今後、消防大学校で修得した幅広い知識を糧にし、安全運航を第一に、機動力を活かした消防防災航空隊が一層の充実強化されることに大きな期待が持たれます。



消防庁危機管理センターでの講義の様子



海上自衛隊視察研修の様子

問い合わせ先

消防庁消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712